

令和5年度 高崎麓小学校 学校評価報告書

【学校経営ビジョン】

子どもたち一人一人を大切に、小規模校の特色を生かした教育活動を展開するとともに、学校・家庭・地域が一体となった取組により、子どもたち一人一人のよさや可能性を伸ばし自信をもたせる教育を推進する。

※ 右側の外部評価欄に4段階評価の点数、コメント欄に気付かれた点や感想などを御記入ください。

4段階評価

【4・・・期待以上 3・・・ほぼ期待通り 2・・・やや期待を下回る 1・・・改善を要する】

評価項目	評価指標	数値目標	自己評価		自己評価に対するコメント(○成果 ●課題)	改善方策	外部評価	学校関係者のコメント
			達成率(%)	項目別				
学力の確かな向上	1 基礎的・基本的な内容の確実な定着のための授業改善	○全国、みやざき学力テストの県平均以上、単元テスト期待平均点以上	△100	3	○授業改善の4つのチェックポイントを常に意識して授業をおこなっていた。(100%) ○単元テスト期待平均以上(教師100%)(児童87%)できた割合が高い。 ●全国学力テストは、県平均以上いかなかった。単元テストでは、なかなか高めることは難しい。 ●「家庭でつくる8つの習慣」について小中一貫での取組ではなかったため、学校で啓発活動は行っていかなかった。 ○とても良くわかる(56%) 良く分かる(44%)答えた。先生方が4つのチェックポイントを使った授業改善に取り組んだ成果である。 ○校内研修でICTの効果的な活用の方法を研究し、実践した。 ○週2回(火曜日に国語、金曜日に算数)を基本に補充・復習・繰り返し学習などに取り組ませた。継続して取り組ませることができた。 ○特に、本校の課題である読解力の問題を意図的に取り組ませた。 ○図書主任や図書館サポーターを中心に、読書の楽しさを伝える活動の企画を定期的に行ったことで、本について興味をもつ児童が88%になった。 ●1週間に1回は本を借りている児童が69%となっており、約30%の児童は、あまり図書室を利用していないことが分かった。本をよく借りている児童とまったく借りない児童の2極化になっている。 ●借りている本の中身が、学年にあてていない子もいる。じっくりと活字を読む時間が必要である。 ●参観日における読書の啓発活動、家読のやり方やカードの活用などの啓発を行ったが目標値である80%以上の家庭で家読の取組を行うことができなかった。 ●取組が積極的な家庭とそうでない家庭の2極化が生まれてきた。積極的な取組が見られない家庭への啓発を今後も考えていきたい。	○読む・書く活動を授業の中で取り組んでいく。 ○取組としては、悪くないので、継続的に家庭への啓発を行っていく。	3.7	○人数が少ないこともあり、一人一人によく目が行き届いているが、パソコンでの授業で書くことが少ないと思われる。書くことで伸びるのではないか。 ○テストの結果は残念だったが、先生方の意識の高さの取組は子ども達にも伝わる。 ○70%はすごいと思う。良いことは継続してほしい。 ○先生方が分かりやすく、説明されている成果であると考えます。 ○チャレンジタイムに読解力向上に取り組まれたことで、児童への学力向上の後押しになると感じる。 ○見ることも大事です、読む方が頭に残っていくと思います。良い本をたくさん読んでほしい。 ○本をたくさん読むことも大切だが、読書の楽しさを感じることも大事だと考える。 ○親にゆとりがないと難しいのではないかと。TVの時間を短くする必要があるのでは。 ○メディア週間の日を設けることにより、家読、話合いの時間にすることは、非常に良いと考える。
		○「家庭でつくる8つの習慣」の実施率70%以上	70	3				
	2 児童一人一人に応じた指導方法・体制の工夫・改善	○授業が「分かる」と回答する児童80%以上	100	4				
		○チャレンジタイムの時間の計画的運用・実施	100	4				
3 読書活動の推進	○年間読書冊数、低学年100冊・中学年80冊・高学年60冊以上	低105 中59 高33	3					
	○「月1回は家読に取り組ませた」と回答する保護者が80%以上	63	2					
豊かな心の育成	1 基本的な生活習慣の定着	○児童アンケート「生活のきまりを守っている」と回答が80%以上	88	3	○生活のきまりを守っていると答えた児童が88%であり、目標値を達成した。 ○教育相談の充実と迅速な対応を100%の職員が行い、心のアンケートにおいて、いじめ0・解消100%に努めた。 ○道徳や学活の授業はためになる(88%)と答えている児童がいる。先生方の授業が充実していることが分かる ○生徒指導の3機能(自己決定の場を与える・自己存在感を与える・共感的な人間関係を育成する)を生かした授業や学級作りを100%の職員が実践したことで、「学校が楽しい」と感じている児童がほとんどである。(自分の命・友達を大切にしている 100%・保護者:友達関係は良好 94%) ●悩みをすぐに相談できない児童がいる。意識した声かけが必要である。 ○挨拶に関しては、気持ちよいあいさつを職員100%指導をし、94%の児童が実践している。保護者も88%の声掛けをしており、実施目標値の80%は超えている。 ●保護者が見た児童の挨拶は50%しか気持ちの良い挨拶をしていないと感じている。 ●挨拶に一言加えて挨拶をすることは62%しか達成できていない。 ●返事については、児童100%とやっていると感じているが、職員60%、保護者63%しかできていないと感じていない。	○自ら考えて行動(考動)できるような言葉かけを全職員が行う。 ○生活のきまりで守れていないところを児童総会の話題にしてはどうか。 ○児童の小さな変化に気づいて、声かけを行う。 ○挨拶・返事の大切さの講話をしたり、挨拶・返事指導を徹底していく。(学校) ○PTAと協力し、気持ちの良い挨拶をするように家庭でも働きかけるようにする。(PTA)	3.5	○大人が気付かないことでも、子どもは気付いていると思う。 ○自ら考えて、行動できる言葉かけは大事だと思う。 ○教育相談の充実、迅速な対応でいじめ0は非常に良い事だと考える。今後も続けて欲しい。 ○楽しい事が学びに通じると感じます。 ○学校が楽しいと感じる児童がほとんどということは素晴らしいことだと思う。 ○自分から挨拶する子が多いと思う。とても気持ちがいい。 ○自ら元気に挨拶ができてきていると思う。
	2 いじめのない学校	○月1回の心のアンケートにおいて、いじめ早期発見・いじめ早期解決100%	100	4				
	3 コミュニケーション能力の育成	○挨拶や返事に関するアンケート80%以上ができたと感じる。	職66 児81 保58	3				
健康教育の充実と体力向上	1 健康で安全な生活習慣の定着	○ふもとっ子ががんばり週間の早寝・早起き・朝ご飯の達成率90%以上	寝89 起97 飯100	3	○積極的にほげんだよりによる啓発を行ったりしたことで、朝ご飯の達成率は100%になった。 ●早寝(1学期100% 2学期77%)早起き(1学期99% 2学期95%)の達成率で早寝に関しては少しはあるが目標値に達せなかった。 ○学校保健委員会の充実を図り、保健だよりによる啓発を行ったりした。 ○メディアコントロールの指導は100%行っている。 ●職員による家庭との連携(75%)メディアコントロールができていない(56%)と低い実施率となっている。 ●家での子供がメディアと関わっている児童は63%であった。 ○D・E判定の児童は、減った。 ○昨年度の課題「立幅とび」は、Tスコア50以上の学年が増えた。 ○体育の運動量の確保(100%)児童のぐんぐんタイムの取組(100%)取り組んでいる。 ●A判定の児童が減った。 ●Tスコア前年度1割減の結果となった。 ●上体起こしを高める必要がある。 ○計画した避難訓練は、計画通り行うことができた。また、反省を確実にを行い、備品の購入や避難訓練の改善などを行った。 ○毎月、命を大切にすることに安全点検を行った。施設で安全が確保できないものはすぐに市に申請をし、修理していただくようにした。 ○命を大切にすることに指導の充実(100%)、自分の命・友達を大切にしている(100%)避難訓練の真剣な取組(94%)と回答している。	○週末がどうしても、遅く寝てしまう傾向にある。極端に遅い児童は、いないが疲労回復・体の成長のためにも10時までには寝ることを推奨していきたい。 ○睡眠時間(学年に応じた時間)の確保、学習時間(宿題をする時間)の確保をしっかりと親や子に伝える。 ○ノーメディア週間に取り組む。 ○PTAと連携した取組を行う。	3	○子ども達より親の方に問題があるのでは。 ○全員朝食を食べての登校は、非常に良いことだと思う。 ○家族でのルールが大事だと思う。 ○ノーメディア週間の取組を今後も続けたいと考える。 ○昔と違い運動遊具等も必要ではないか。 ○室外でたくさん遊んで欲しいと感じる。 ○避難訓練、全く予告なしですることも大事だと考える。
		2 体力の向上	○体力テストの結果を踏まえた個人目標の設定 Tスコア50以上前年度より10%増	約10% 減				
	3 安全教育の推進	○年間3回以上の避難訓練の実施	100	4				
家庭・地域と一体となった教育の推進	1 学校運営協議会を中核とした地域との連携	○授業への地域人材・素材の活用年間6回以上	100	4	○ふもとっ子を伸ばす会の協力をいただき、稲作体験活動(田植え・稲刈り・脱穀・もちつき・めもち等)野菜栽培や谷川俣踊り保存会の方々の協力で民俗芸能の指導をしていただくことができた。 ○高崎フットパスも地域の方と一緒に取組めた。 ○今回のアンケートは満足度100%だった。 ○継続的な取組を行っていく。 ○月1回の学校だよりの発信(地域の回覧板による発信)、1週間に1~2回のホームページ更新、職員による定期的な学級通信など、学校からの情報発信を積極的に行った。	3.8	○地域の体験は非常に良いことだと思う。今後も関わっていききたいと思う。 ○今後、地域の宝と言われる子ども達。地域ふもとっ子の会も今少し、気持ちを引き締め、体制を強化すべきである。 ○保護者は仕事がある。最小限の努力はしていただき、地域住民が協力すべきである。 ○小中一貫教育の取組は非常に良いことだと思う。 ○メール配信により学校行事が分かり、非常に良いことだと思う。	
		○家庭・地域との連携に関する保護者アンケート満足度80%以上	100	4				
	2 小中一貫教育の推進	○小中一貫教育を80%以上の職員が効果的に実施できたと感じる。	100	4				
3 学校からの情報発信	○月1回の学校だよりの発信やきめ細かなHPの更新	100	4					